



# 建荷協長野県支部通信

第2巻 第1号

発行日 平成26年6月2日

## 1 第32回定時総会開催される

5月21日、公益法人となってから第3回目の長野県支部定時総会がホテル国際21で開催されました。総会は委任状を含め会員153社の出席をもって成立し、遠藤支部長のあいさつに引き続き、第1号議案 平成25年度事業報告並びに収支決算報告、第2号議案 平成26年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について審議し、いずれも原案通りに可決されました。

総会では、建設荷役車両安全の普及促進に尽力し当協会の事業推進に寄与された次の方々が本部会長及び当支部長から表彰されました。(敬称略)

功績賞 荻原一芳(トヨタL&F長野(株))

技能賞 佐藤勇司(ツカサ工業(株))

技能賞 曾根原久夫(昭和電工(株)大町事業所)

技能賞 洞 省造(長野特機(株))

技能賞 百瀬 清(甲信イシコ(株))

考案賞銀賞 大平範雄(飯田チーゼル(株))

考案賞努力賞 越山 清(日立建機日本(株)長野支店松本営業所)

他に考案賞表彰には至らなかったものの、3名の方が参加賞を授与されました。

総会にはご来賓として、長野労働局健康安全課の滝口課長、県下監督署を代表して佐々木長野労働基準監督署長のご臨席を賜り、ご祝辞をいただきました。また、建荷協本部会長の吉識様からもメッセージをいただき代読しました。

総会は成功裡に終了し、新年度の事業がスタートしました。



あいさつされる遠藤支部長

## 目次：

第32回総会開催される	1
平成26年度研修・教育の予定	2
全国安全週間について	3
危険有害性の「見える化」推進運動	4
事務局だより	5

## 2 平成26年度研修・教育の予定

平成26年度の研修・教育の方針は

- \* 検査資格取得研修を行い、検査資格者を育成する。
- \* 検査資格者の実務能力、管理能力を維持向上させる。
- \* 時代の要請とニーズに合った研修・教育を行う。

もって、信頼される検査制度の充実と労働災害の未然防止に貢献する、です。

本年度の研修予定は別紙の研修日程

表のとおりです。

各研修の申込み等に関する情報は、随時(2か月前)お知らせいたしますが、当支部ホームページにも掲載し、申込み様式等をダウンロードできるようになっておりますのでご利用ください。

本年度は、能力向上教育等の一部を松本で実施することとしております。

また、リスクアセスメントについては現在長野県支部モデルを作成中であり、これによってセミナーを実施いたします。

## ハイライト：

- 全国労働安全週間:7月1日～7日  
安全週間準備月間:6月1日～30日
- 実務研修「記録表作成Aコース」(7月24日、ポリテクセンター松本)の受講申し込みを受け付けています。
- 実務研修「検査業者業務点検コース」(7月29日、長野地域職業訓練センター)の受講申し込みを受け付けています。
- 研修情報は当支部ホームページをご参照いただくと便利です。

## 長野県最低賃金 時間額 713円

平成25年10月19日から適用されています。  
各社確認しておいてください。

「人間ならば誰にでも  
現実の全てが見える  
わけではない。多くの  
人は、見たいと欲する  
現実しか見ていない」  
(ユリウス・カエサル)

### Q&Aコーナー

**Q:** 油圧ショベルの検査記録表の「性能」の欄が、従来は「m<sup>3</sup>」単位で記載し、料金表もそれで出来上がっているが、新しい記録表を見ると、「kg」で記載するようになっていた。実務研修でも「m<sup>3</sup>」で教わった。今後は「kg」で記載しなければならぬのか？

**A:** 複数のディーラーから「kg」表示にしてほしいという要望が寄せられたため、今年からこのようになったもの。銘盤にある機体重量を記入してもらえばよい。

もちろん「m<sup>3</sup>」表示でもよく、その場合には「kg」に横線を引いて「m<sup>3</sup>」としておいてもらえばよい。

「m<sup>3</sup>」のほうがよいということであれば再び「m<sup>3</sup>」表示に戻すこともありうる。

【本部に照会した結果、このような回答でした。】

## 3 全国安全週間について

第87回全国安全週間が、7月1日から7日までの1週間実施されます。本週間の実効を上げるため、6月1日から30日を準備月間とします。職場の安全活動の節目としてできるだけ効果が上がるように取り組みましょう。

労働災害は全国的に減少している中、長野県では休業4日以上死傷者数が4年連続の増加となっており、平成25年の死亡者数は20人で対前年比+54%と大幅に増加しているところです。

労働災害が多発した時代を経験し、安全に関する知識や経験を豊富に有する人が労働現場から去り、災害が発生して

いないことによる過信や慣れが重大災害を発生させる契機として存在しています。

平成26年度の安全週間のスローガンは、「みんなでつなぎ 高まる意識 達成しよう災害ゼロ」です。

安全に関する経験やノウハウを産業の違いや世代を超えてつないでいくことの大切さを確認しつつ、各職場において安全意識を高め、安全に対する慣れや過信を捨てて労働災害の防止に取り組むという趣旨です。

詳しい要綱は当支部のホームページからダウンロードできますので、各職場での積極的な取り組みをお願いします。

## 4 危険有害性の「見える化」推進運動

長野労働局の、危険有害性の「見える化」等の普及促進を目指して、というリーフレットをいただいたところです。(当支部ホームページに掲載しています。)

いろいろ難しいことが書いてありますが、要するに、危険なところを職場で洗い出した上、誰もが危険とわかるように表示等して、労働者自身が自ら危険の防止に取り組むようにする活動です。その好事例を募集しているとのこと。ご応募の向きがございましたら支部事務局までご一報ください。

「危険の見える化」ってなんだろうと考えてしまいます。我々は普段日常生活の中で危険についてほとんど無意識に動いています。危険は客観的には存在するのだが、その意識がない、すなわち「危険が見えない」ということになっています。

つまり、危険は意識して見ないと見えないということです。意識的に洗い出し、誰もが見えるようにし、意識することです。

しかし、古来よりの格言に、人には「見たくないものは見えない」ということがあります。困難な闘いではありません。

## 5 事務局だより

韓国フェリー転覆事故は衝撃的でした。304人の死者・行方不明者を出し、その多くが修学旅行中の高校生であったことです。

日本から購入した中古の船を改造し、重心が上がったところに安全基準の3倍以上の貨物を載せて航行中、潮流の速い海域で経験の浅い航海士が急旋回し、固定が不十分な貨物が左舷側に寄って転覆したといえます。

過積載を隠すため、船のバランスを保つ重しとしてタンクに入れる海水「バラスト

水」を安全基準の4分の1強しか積まなかったため、さらに重心が上がり転覆しやすい危険な状態にあったとのこと。

また、航海前に義務付けられている船舶の安全点検を行わないまま、全ての項目に「良好」と記載した点検報告書を「慣例的に」作成しており、安全確認がないままの航行が常態化していたようです。

重機の安全確保のための検査を旨とする建荷協としては、決して他人事とは思えません。他山の石として自らの業務の姿勢を見直しておく必要があると思います。

研修日程表 [平成26年度]

(公社)建設荷役車両安全技術協会  
長野県支部

機 種				開催 場所	定員	26年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年 1月	2月	3月
資格取得研修	高所作業車	検査業	BC	長野	30人			11(水) ~ 13(金)									
	フォークリフト	検査業	BC	長野	30人				8(火) ~ 10(木)								
	整地、運搬、積込み用、 掘削用及び解体用	検査業	BC	長野	30人						2(火) ~ 4(木)						
	フォークリフト	事業内	EF	長野	30人								10(月) ~ 12(水)				
能力向上教育	高所作業車			長野	50人							27(月)					
	フォークリフト			松本	50人							8(水)					
	整地、運搬、積込み用、 掘削用及び解体用			松本	50人						25(木)						
安全教育	クレーン機能付車輛系建設機械			長野	50人			26(木)									
実務研修	検査記録表作成Aコース			松本	30人				24(水)								
実務研修	業務点検コース			長野	50人				29(火)								
セミナー	リスクアセスメント	松本			30人												
		長野			30人								28(金)				
特別教育	フォークリフト(1t未満)			長野	30人							15(水) ~ 16(木)					
研修	検査業検査者実務研修	松本		(予定)	90人								5(水)				
		長野			150人							22(水)					

※ A(35H) B(21H) C(18H) E(14H) F(9.5H)